



- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. ボイル記念碑 | 16. レディーチャペル |
| 2. ケルトの石板 | 17. 聖母子像 |
| 3. カラン像 | 18. トレガリイ墓石 |
| 4. ジョーンズ記念碑 | 19. ブエロー記念銅板 |
| 5. オキャロランのレリーフ | 20. サトン記念銅板 |
| 6. 聖パトリック像 | 21. フィーシー記念銅板 |
| 7. ドーソン司祭長像 | 22. 聖歌隊席 |
| 8. バッキンガム卿像 | 23. マーシュ記念碑 |
| 9. ホワイトサイド像 | 24. ケルトの石板 |
| 10. ラヴァー石碑 | 25. ハイド記念碑 |
| 11. チャプタードア | 26. チルダース記念碑 |
| 12. ユダノー・ベル | 27. スウィフト記念碑 |
| 13. パイプオルガンへの階段 | 28. スウィフトとステラの埋葬所 |
| 14. ドウ・ソーンダフォード墓石 | 29. 洗礼堂 |
| 15. ショーンバーグ石碑 | |

一般公開時間

月曜日～金曜日（年間を通じて） 9.00 – 18.00（最終入場17.00）

土曜日:

3月～10月 9.00 – 18.30（最終入場18.00）

11月～2月 9.00 – 17.30（最終入場17.00）

日曜日（礼拝の30分前に入場締め切り）:

3月～10月 9.00 – 18.30（最終入場18.00）

11月～2月 9.00 – 15.00（最終入場14.30）

年間を通じて、皆様をお待ちしています。グループの場合は、ご予約をお勧めします。

ガイドのサービスはありませんが、売店でガイドブックが販売されています。礼拝中の入場は、礼拝者のみに限られています。

礼拝時間

日曜日:

正餐式（レディーチャペル） 8.30

正餐式（賛美歌）/朝の礼拝 11.15

夕べの礼拝 15.15

日曜日以外:

朝の礼拝（学校の休日を除く月曜日～金曜日） 9.40

正餐式（水曜日、木曜日のみ） 11.05

夕べの礼拝（月曜日～金曜日） 17.45

7月・8月の土曜日および水曜日の礼拝に賛美歌はありません。すべての宗派からの皆様を歓迎いたします。礼拝中、聖歌斉唱中の写真はご遠慮ください。

設備

観光バスの駐車場はSaint Patrick's Close通りにあります。車椅子によるアクセス可能。お手洗いも利用できます。教会内のショップには数々のガイドブック、大聖堂についての情報、大聖堂の賛美歌・パイプオルガンのCDなどを揃えております。すべての収益は大聖堂の維持に当てられます。

スタッフ

必要がありましたら、いつでもスタッフにお尋ねください。また、牧師との話を希望される場合にも、お気軽にお申し出ください。

連絡先

Tel: +353-1-475 4817（大聖堂）

+353-1-453 9472（オフィス）

Fax: +353-1-454 6374

Email: admin@stpatrickscathedral.ie

Web: <http://www.stpatrickscathedral.ie>



セント・パトリック大聖堂
カレッジチャーチ ❖ ダブリン

司祭長、参事会より
皆様に歓迎と募金への
感謝を申し上げます。

大 聖堂に隣接している公園にかつてあった和泉で、聖パトリックはキリスト教への改宗者を洗礼した、と伝えられています。そのために、5世紀以降、この場所に教会が建てられましたが、1191年になって、ノルマン人がその教会を石造りにしました。その後、13世紀に改築された教会が現在のものです。火災で焼失した西塔は、ミノール大主教によって1370年に再建され、尖塔は1749年に建てられました。

セント・パトリック大聖堂は、長い歴史の中で、アイルランドの人々の生活に大きな貢献をしてきました。ジョン・ナサン・スウィフトは1713～45年の長期間、司祭長を務めました。1742年には、ヘンデルの「メサイア」がこの大聖堂で初演され、その際、セント・パトリック、およびクライスト・チャーチ大聖堂の聖歌隊も参加しました。「リビング・ストーンズ」と呼ばれている常設展では、町の営みにおける大聖堂の位置付け、その歴史、激動の世界で果たしてきた役割が紹介されています。これは、大聖堂が単なる博物館ではなく、過去を容認し、新しい時代の訪れを告げる場であることを裏付けています。

大聖堂における主要箇所

身 廊西側 ボイル家記念碑 [1] は、コーク県のリチャード・ボイル伯爵が、2番目の妻キャサリンのために1632年に建てたものです。キャサリンの祖父であるロバート・ウエストーンは、この大聖堂の司祭長（1567年～73年）を務め、また、アイルランドの大法官も務めた人です。ここには、キリスト教のシンボルを刻み込んだ2つのケルトの石板もあります [2]。

北 廊 書類管理責任者であったジョン・フィルポット・カラン尊師の白大理石胸像 [3] は、1842年に一般募金によって造られたものです。彼の娘、セーラ・カランは、愛国者ロバート・エメットと恋仲にありました。この2人の悲恋は、トーマス・ムーアの「祖国からの遠き人=She is far from the Land」という詩の題材になりました。二段構えの記念碑は、ダブリンの大主教トーマス・ジョーンズ（1650年没）[4]とその息子、ラネラ伯爵を記念するものです。ハーブ演奏家であり、「最後の吟遊詩人」と呼ばれたターロウ・オキャロランの大理石のレリーフ [5]、メラニー・ル・プロキエ作の聖パトリック像 [6]、ドーソン司祭長像 [7]、1783年に総督の地位に就き、セント・パトリック会の礼服、勲章を付けたバッキンガム卿の像 [8]、ジェームズ・ホホワイトサイド裁判長（1876年没）の像 [9] もあります。黒大理石の上の白大理石碑は、詩人、画家、作家、作曲家でもあったサミュエル・ラヴァー（1868年没）を記念するものです [10]。

北 袖廊 ここには、ダブリンの銀細工師リチャード・ウィリアムズによって1779年に作られた大聖堂用の銀製品を始め、主要な展示物が集められています。「チャプタードア」[11]と呼ばれる参事会室扉は、1492年のキルデア伯とオーモンド伯との和睦を記念するものです。当時、2人は対立していましたが、オーモンド伯が参事会室に逃げ込んだのに対し、キルデア伯がそのドアに穴を開け、自ら進んで宿敵の手を握ったことで、和睦が取り戻せたという逸話が残っています。また、ユグノーがダブリンに移り住んだことを記念する、ユグノー・ベル [12] は、1975年にダブリンのセント・ルカ教会が閉鎖された時、その教区民たちよりセント・パトリック大聖堂へ献上されたものです。大聖堂に対する音楽関係者の貢献の跡は、らせん階段から最上段のパイプオルガン付近に見られます [13]。アイルランド連隊関係の記事や記念品も多数展示されています。

聖 歌隊席北側廊 ダブリン大主教を務めたフルク・ドゥ・ソンドフォード（1271年没）の墓石と肖像がここにあります [14]。ショーンバーグ公の黒大理石墓石に刻まれたラテン語の碑文はスウィフトによるものです [15]。1686年にアイルランド行きをウィリアム・オレンジ公に勧め、支持を約束したのもこのショーンバーグ公でした。

レ ディーチャペル [16] このチャペルは、1666～1816年にわたり、ユグノーによって使用されました。背もたれの高い椅子は、ポイン河の戦い（1690年7月6日）の後、ウィリアム3世が祈りの席で使用したものです。フリードリヒ・ハークナー作の聖母子像もここにあります [17]。

聖 歌隊席南側廊 マイケル・トレガリィ大主教を記念する墓石 [18] があります。14世紀初期の執事補のものと思われる肖像は、アイルランド中世期を代表する浅浮雕レリーフの1つです。エリー・ブエロー博士（1643～1719年）は、ユグノー亡命者で、マーシュ図書館の初代司書でした。記念銅板はその埋葬地を記すものです [19]。サトン、フィーシィを記念する銅板は、16世紀のもので、アイルランド最古の1つに数えられています [20 & 21]。

聖 歌隊席 [22] 前の2列は聖歌隊用のもので、3列目は参事会会員用のものです。その上の旗と忌中紋章は、1783年にジョージ3世によって設立された騎士道精神を重んじるセント・パトリック騎士団のもので、パイプオルガンは北側のトリフォリウムと高窓の位置に配置されています。

南 袖廊 1701年にアイルランド初の公立図書館、マーシュ図書館を設立したナーシス大主教の記念碑があります [23]。マーシュ図書館では、マーシュ大主教の書籍コレクションが、現在でもそのまま使用されています。2つのケルトの石板 [24] は、7世紀と10世紀のもので、

南 側廊 ここには、軍隊関係の記念品と、ダグラス・ハイド初代大統領 [25] およびアースキン・チルダース第4代大統領 [26] の記念碑があります。また、作家、風刺家であり、セント・パトリック大聖堂の司祭長でもあったジョン・スウィフトの碑文、胸像、デスマスク、著作、ダブリン名誉市民権、アン女王からの特別証書（この証書によって大聖堂司祭長となる）、スウィフトが使用したと言われる説教台などの記念品も展示されています [27]。スウィフトの胸像近くの銅板には、大聖堂の司祭長全員の名前が記されています。身廊の南西部には、スウィフトと友人のステラ（エスター・ジョンソン）が埋葬されています [28]。

洗 礼堂 [29] 中世期のタイルと洗礼盤があります。1864年に造られたステンドグラスは、ダブリンのケーシー兄弟によるもので、19世紀に行われたベンジャミン・ギネス卿による大修復工事を請け負ったティモシー・マーフィー、パトリック・マーフィーの両者によって寄贈されました。

セント・パトリック大聖堂は、アイルランドで他に類を見ない豊かな歴史と遺産を受け継いできました。そこには、歴史の初期から現在に至るまでの、あらゆる階層の物語が秘められています。荘厳な音楽を通して、神へ日々の礼拝を捧げるという設立以来の役割は、今後も変わることがありません。